

利府町ゼロカーボンシティ宣言

2050年までに温室効果ガス排出の
実質ゼロを目指します!

本町では、文化交流センター「リフノス」の地中熱利用設備の整備をはじめ、道路照明灯・防犯灯のLED化などを先駆けて進めてきました。

今後においても、このような「カーボンニュートラル」の取組みをさらに推進しながら、豊かな環境を将来世代に引き継いでいくための具体的な目標や方向性を示す、「利府町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定し、2050年までに町内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すことを表明しました。

●ゼロカーボンとは?

ゼロカーボン(カーボンニュートラル)とは、企業や家庭から排出される二酸化炭素の削減、植林や森林管理などを通して、人為的な発生源による排出量から森林などの吸収源による吸収量を差し引いた、排出量の合計を実質的にゼロにすることです。

●ゼロカーボンシティとは?

「2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロ」を目指す旨を表明した地方自治体のことを指します。



利府町ゼロカーボンシティ宣言

近年の気候変動は、私たちの生活や生態系にさまざまな影響を与え、深刻な自然災害が世界のみならず国内でも発生し、その災害は、今後、更なる頻発化・激甚化が予測される極めて深刻な状態となっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界全体の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃未満とし、1.5℃に抑える努力をする」との目標が広く共有され、これを達成するためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要とされています。

本町は、東部に風光明媚な表松島の馬の背、西部に県民の森、中央部には加瀬沼公園と豊かな自然に恵まれ、その恵みを礎に今日まで発展し続けてきました。先人たちから私たちに受け継がれてきたこの自然の恵みは、これからも守っていかなければなりません。

利府町は、町民・事業者・町が連携し、持続可能で安心して暮らせるまちを次世代に引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことをここに宣言します。

令和4年10月3日

利府町 熊谷大

▲利府町「ゼロカーボンシティ」宣言書

一利府町ゼロカーボンシティの実現に向けた主な取り組み一

■脱炭素・再生可能エネルギーの推進

公共施設への太陽光発電設備・文化交流センター地中熱利用空調設備整備
省エネエアコン・電気冷蔵庫買換促進事業

■循環型社会の構築

3R運動、リサイクル運動報奨金、小型家電回収箱設置

■緑化推進

植樹活動、緑の募金活動

■イベント等啓発活動

環境まるごとフェアの開催

■公共施設等の脱炭素化

公共施設照明、防犯灯街路灯LED化、公用車の電動化



宮城県利府町長 熊谷 大 殿

貴町におかれましては、この度、地方公共団体として2050年の温室効果ガスの排出量実質ゼロ(ゼロカーボンシティ)を目指すことを表明されました。今回の貴町の表明をもちまして、ゼロカーボンシティは国内で790地方公共団体となりました。我が国としての2050年カーボンニュートラルの実現に向け、大変心強く感じております。

近年、国内各地で大規模な災害が多発しているところですが、地球温暖化の進行に伴い、今後、気象災害の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」とも言われている気候変動問題に対処するため、2050年カーボンニュートラルの実現を目指す必要があります。

現在、政府としては、2050年カーボンニュートラルや2030年度46パーセント排出削減目標の達成に向け、再生可能エネルギーの最大限の導入などを掲げ、我が国の成長戦略の柱の一つとしてしているところです。

環境省としても、脱炭素社会、循環経済、分断型社会への3つの移行を推進し、今までの延長線上ではない、社会全体の行動変容を図ってまいります。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けては、今後30年間のうち、とりわけこの5年間、10年間の取組が重要です。このため、地域脱炭素ロードマップに基づき、脱炭素先行地域づくりや、脱炭素の基盤となる重点対策の全国実施を進めていく必要があります。貴町及び他のゼロカーボンシティと連携しながら、地域脱炭素の更なる具体化・加速化を進めてまいります。

環境大臣 西村 州夫

▲環境大臣からのメッセージ



▲役場正面入口に掲示しています

「ゼロカーボンシティ宣言」への参加を機にこれまで実施してきた取組や課題事項を整理し、具体的な方向性や施策内容について検討していきます。また、包括連携協定を締結している東日本電信電話株式会社とも連携して、民間の知恵を生かした脱炭素・活力のあるまちづくりを目指します。